

平成 30 年度学力向上推進計画

「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立神辺小学校

I めざす子ども像

- ＜自ら学ぶ子ども＞
- ・学習に意欲的に取り組み、進んで問題を解決しようとする子
 - ・相手の話に耳を傾け、深く考え、自らの思いや考えを表現できる子
- ＜心の豊かな子ども＞
- ・なかまを大切にし、共に高まろうとする子
 - ・郷土の良さをみつけ、美しいものや自然に感動する子
- ＜心身ともに健康な子ども＞
- ・命の重さを知り、自他を尊重する子
 - ・働くことに誇りや喜びをもち、進んで役立とうとする子

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

＜学力に関して＞

国語科では、言語事項において漢字の書き取りに心配な状況がある。また、資料などを基に自分の考えをまとめて書くことなど、自分の考えを記述することに課題が見られ、学力調査では、記述問題の誤答や無解答が多い。児童質問紙の結果、自分の考えを書くことについて 75% の児童が苦手感を持つ。

算数科においては、「数と計算」の領域の落ち込みが大きかった。そのため、既習事項を活用して問題を解くことができなかったと思われる。また、記述式の問題についての課題も依然として残っており、国語と同様に、理由を明らかにして説明することに課題がある。

＜学習・生活の状況に関して＞

家庭においてのテレビやビデオの視聴、テレビゲーム、スマホの操作など、児童が画面を見ている時間がとても多い傾向にある。そのため、関連して平日、休日における家庭での学習時間は短い。児童質問紙 (H29)

- テレビゲームなどをする時間に関する事項 3時間以上する児童 35%
- 平日の家庭での学習に関する事項 学習時間1時間未満 55%
- 予習にあてる時間の短さ**

III 指導改善のための計画 (ポイント)

＜学力に関して＞

- 1 見通しの持てる授業の実践
- 2 基礎・基本的事項の確実な習得
- 3 既習事項の繰り返し学習する機会

＜学習・生活の状況に関して＞

- 1 基本的な生活習慣の確立
- 2 家庭学習の充実

IV 具体的な取組

＜確かな学力を身につける授業の改善＞

- 1 見通しの持てる授業の実践
 - ・「めあて」の提示から「ふり返し」までの授業スタイル確立
 - ・「めあて」「ふり返し」の改善(目標の明確化と評価) 本時の目標を明確にした「めあて」と学んだことが子どもの言葉で表現された「ふり返し」
 - ・記述や説明など教科の目的を達成するための言語活動 算数など、**教科の目標を達成するために必要な言語活動(考えを記述・説明する・検討)**を確実に授業の中に導入する。
 - ・「ふり返し」を記述することで、**書く活動の日常化**。
- 2 算数科 きめ細かな指導の充実
 - ・習熟度別少人数指導を生かした個に応じた指導 5・6年
 - ・ティームティーチングにより、個別支援の充実 3・4年
 - ・管理職も参加した取り出しによる個別支援 5・6年算数

＜組織的に取り組む学校体制の確立＞

- 1 基礎・基本的事項の確実な習得 (既習事項を繰り返し学習する機会の保障)
 - ・スキルアップタイム **言語事項の習得**
 - 既習の言語事項について、繰り返し学習する機会を保障 **漢字自作プリントによる既習漢字の習得の徹底**
 - ・算数カルテを用いた**確実な算数補充学習**
 - 児童の弱みを過去に遡って調査。弱みの最初から順に補充学習を実施。金曜スタディでは、丸付けはボランティアに、個別の支援は教員が行っている。
- 2 学習部を中心とした取り組みの検証
 - ・三重スタディチェックの再活用による検証
 - ・生活チェックによる基本的な生活習慣などの調査

＜指導力を高める研修の推進＞

- 1 全教職員で学力調査やスタディチェックを採点・分析することで、子どもたちの強みや弱みを共通理解し、指導に役立てる。
- 2 **管理職が日常的に授業観察**を行い、学校の授業改善方針に沿った授業が行われているか点検・指導を行う。
- 3 年間3回の授業研修とは別に、自主的な公開を促し、互いの授業や取組を「見える化」することで、指導力の向上を図る。

＜家庭・地域との連携の強化＞

- 1 学校運営協議会を通しての連携
 - ・学力保障の取り組みについての検討
 - ・地域コーディネーターによる学習ボランティアの配置
- 2 家庭への適切な情報提供・家庭学習の充実
 - ・学校だよりなどでの適切な情報提供・協力依頼
 - テレビ・スマホ・テレビゲームなどの使用に関する情報を保護者に提供し、基本的な生活習慣の確立に向けて連携する。
 - ・「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の中でも特に「ワークシート」の取り組みについて、もれなく行われるよう保護者に協力を求める。**自主学習の中に予習を入れ、児童が事前に自分で学ぶことを推奨**。